

# 内科・糖尿病内科

## 担当医師 井口昭久教授

### の記事が掲載されました。

3月20日 朝日新聞 朝刊（毎月1回掲載中）

## 老年学

## みなさんお大事に

腰痛、視力障害、難聴、認知症、便秘など高齢者に多く出現する症候を老年症候群というが、骨折も老年症候群の一つである。

私は右膝の骨折をして入院した。手術を受けて、1か月半後に仕事に復帰した。装具をつけた右足をいすの上に置いて患者を診た。診察室に入ってきた患者たちは、右足を投げ出した姿を見て、笑い出したが、慌ててまじめな顔になって、理由を尋ねてきた。「骨折した」と答えると、「どうい



The Asahi Shimbun

愛知淑徳大学教授  
医師

## 井口 昭久

で？」と訊く。「スーパーの駐車場で」と答えると、「平らな所で骨折するなんて、老人だね」と言う。私が診ている患者は付き合いの長い人なので遠慮がない。

患者はこちらが尋ねる時はいつも曖昧な返答しかしないくせに、立場が変わると的確な質問をしてくる。「いつ?」「どうして?」「

痛かった?」……。医者と患者の立場が逆転している。患者たちに繰り返し質問されるので、患者が目の前に座ると、私の方から訊かれもしないのに、どこで、どうして骨折したかを説明するようになった。中には骨折の経験者もいて、「寒くなると痛むよ」と、教えてくれた。経験者の言葉は医者言葉より身にしみた。診察室を出る時に、みんな、「お大事に」と言って出ていった。

このコラムは今日で終わりです。長い間ありがとうございました。皆さん、転ばないようにしてください。私も気をつけます。